



三好市建第235号
平成19年 5月 9日

国土交通省道路局長 宮田年耕 殿

徳島県三好市長 俵 徹太郎



中期的な計画の作成にあたっての意見について

(平成19.4.2国道企第114号に対する回答)

このことについては、別紙のとおりです。

三好市の目指す中期計画

徳島県三好市長 俵 徹太郎

三好市は、徳島県西部、四国のほぼ中心に位置し、平成18年3月に旧6町村が合併し、四国で最大の面積、約722平方キロメートルの行政エリアを有する市として誕生しました。

急峻な山間部が約87%を占め、中心部を吉野川が流れるなどの複雑な地形となっておりますが、四国の最重要幹線国道32号と192号が交わる交通の要衝として、四国中央地域の中核都市として栄えてまいりました。

また、四国山地の山々に囲まれ、水と緑の自然豊かで美しい観光交流拠点が多数ありますが、全国レベルでもトップクラスの少子高齢化による人口の減少、過疎化が急速に進んでいる地域でもあります。

このような状況の中、今後三好市としては、世界でも引けをとらない大歩危、小歩危のラフティング、腕山のスキー場、祖谷かずら橋、多数の温泉施設 地域に伝わる伝統や文化を体験型観光交流の拠点として温かい人情のもと、誰もが住み続けたい、住んでみたい街づくりを目指し、世界各国からの入り込み客の増加を図ってまいりたいと考えております。

現在 広大な市の住民生活基盤として、三好市内全体をケーブルテレビネットワークで結び、地上テレビ放送のデジタル化の対応のみならず、地域生活に繋がる「防災」、「教育」、「観光」、「福祉」等、光ファイバーケーブルを利用した情報通信基盤整備を行っており、平成21年度に完成すれば、住民が必要とする生活情報や地域に密着した情報の提供が出来るようになります。

又 住民の方々を自然災害から守る為の砂防、河川整備につきましても積極的に協力を行い、安全、安心な生活が出来るよう努めてまいります。

観光や生活の基盤である道路整備につきましては、平成19年度より本格的に着手される猪ノ鼻道路、現在調査中の大歩危改築を含め、観光客、地域住民が安全で安心して通行出来る様 「道路整備なくして、三好市の発展はない」との信念のもと、秘境は秘境として残し、これまで以上に効果的な事業執行を行なってまいります。

以上整備促進はもとより、将来に向けて、安定した流通と安全を確保するための道路の維持管理、地域保全が出来る様、国 県に要請を行なってまいります。